



**JD
RC ドライブレコーダー協議会**

2020 年度事業報告書

期間:2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

1. 活動総括

2017 年度以降、社会的に注目される交通事故や交通に関わる事件が相次いだことにより、交通事故等を視覚的に確認できるドライブレコーダーの有用性の認識が高まり、一般の自動車向けのコンシューマー用ドライブレコーダーの普及が引き続き進んでいる。自治体やメディアからドライブレコーダー協議会への問い合わせも、相変わらず数多く寄せられ、本協議会は、2016 年 10 月に一般社団法人として発足して以来、社会的に広く認知され、期待が高まっていると思われる。

特に、各部会の活発な活動によって、「ドライブレコーダーの推奨ガイドライン」(基本要件編、ADAS ガイドライン)や「ドライブレコーダー製品テスト試験要領」(内規)など、これまで懸案とされてきたドライブレコーダーに関するいくつかの成果を 2019 年度に公表することができたことは、本協議会の本来の目的の達成が実現に向けて着実に前進しているものと評価している。残念ながら、2020 年度は、コロナ禍により、新たなガイドラインの作成・公表や製品テストの公表には至らなかったが、改めて、これらの成果に貢献された会員各位に敬意を表するとともに、なお一層の成果に向けて、引き続き活動を活発化されるようお願い申し上げたい。

本協議会の活動は、このほかにも、従来のドラプリ中心の運営から広がりを見せつつある。自動運転に関する国土交通省と警察庁のパブリックコメントに対して、記録装置についての本協議会の意見を提出し、また、自動車技術会や他学会において講演するなど、社会への情報発信も積極的に行う体制が整いつつある。さらに、実現には至っていないものの、他団体から委託や協業の申し出があり、対応を行ったところである。

また、ドラプリ 2020 についても、2020 年 12 月に、自動車技術会映像情報活用部門委員会との全面的な共催により、「ドライブレコーダーの過去・現在・未来」をテーマにオンライン会議形式で開催し、約 250 名の参加を得ることができた。これからも引き続きオンライン会議形式の活用により、ドラプリからの情報発信を試みていきたい。また、ホームページの抜本的な改修については、2021 年 5 月を目途に実現にこぎつけることができた。その他、ドライブレコーダー補償金制度の継続、他機関との連携・協力等も概ね順調に推移した。

協議会発足以来、ドライブレコーダーの認知度の急激な高まりに伴って、協議会の存在感も確実に高まってきている。しかしながら、協議会がドライブレコーダーを通じて交通安全への啓発活動に主体的に発信するという目標は高いところにある。コロナ禍における協議会活動の継続・活発化、部会活動におけるリソースの集中、財政的基盤強化のための方策立案、広範囲の業種会員間の意見交換なども必要であり、次年度も引き続いて、協議会としてのリソースの向上を地道に探り、会員に役立ち、社会に貢献する体制の強化を図っていくこととした。

2. 活動報告

1) 社員総会(全1回)

日 程	2020年9月25日(水) 13:00～
場 所	オンライン(Teams)
決議事項	第1号議案 2019年度事業報告書の承認 第2号議案 2019年度決算報告書の承認 第3号議案 役員の改選
報告事項	1. 2020年度事業計画書 2. 2020年度収支予算書 3. ADASガイドライン

2) 理事会(全3回)

① 定例理事会

日 程	2020年9月16日(水) 16:50～
場 所	オンライン(Teams)
決議事項	第1号議案 入会の承認 第2号議案 技術広報部会の設置の承認 第3号議案 ドライブレコーダー推奨ガイドライン(ADAS追加要件)の承認 第4号決議 2019年度事業報告書の承認 第5号議案 2019年度収支決算書の承認 第6号決議 理事の退任及び理事候補者の推薦の決議 第7号議案 2020年度総会の開催
報告事項	1. 2019年度第2回理事会議事録の報告

② 臨時理事会

日 程	2020年9月25日(水) 14:40～
場 所	オンライン(Teams)
決議事項	第1号議案 役員名簿案の審議

③ 予算理事会

日 程	2021年3月17日(水) 16:40～
場 所	オンライン(Teams)
決議事項	第1号議案 入会審査 第2号議案 2021年度事業計画書案の審議 第3号議案 2021年度収支予算案の審議

3) 運営委員会

2020年 5月20日、7月30日、8月19日、9月16日、10月20日、11月18日、12月16日

2021年 1月20日、2月17日、3月17日

4) ドライブレコーダー・シンポジウム「ドラプリ 2020」

ドラプリ実行委員会 委員長 永井正夫

1. コロナ禍の中で今回初めて、公益社団法人自動車技術会映像情報活用部門委員会と共同でオンライン開催した。講演会の副題は、ドライブレコーダーの過去・現在・未来である。開催方式は、自動車技術会が提供する Webex によるオンライン会議であった。
2. 開催趣旨： 自動車における車載カメラ等によって収集された映像情報の活用は多岐にわたっている。例えば運転映像を記録するドライブレコーダーは自家用車・業務用車両に爆発的に普及し、用途も事故抑止・安全教育や事故時過失割合の科学的判定に留まらず、運転支援や自動運転技術の高度化を目指した基礎データ収集にも活用されている。また、最近では自動運転技術に注目が集まっているが、車載カメラによる映像情報からリアルタイムに歩行者や環境を認識する技術が急速に高度化しており、交通の円滑化や安全性向上のプローブとしての活用も期待されている。本講演会では多様化しつつある自動車分野における映像情報活用に関して、ドライブレコーダーや自動運転分野での産・官・学・民の幅広いセクターの見解を紹介してもらい、会場参加者との質疑応答も交え、ドライブレコーダーの可能性を模索する。
3. 講演内容は、3部構成とした。

第一部<司会> 永井正夫氏(映像情報活用部門委員会委員, ドラプリ 2020 実行委員長)

13:00-13:05 開会挨拶 鎌田 実氏(映像情報活用部門委員会委員長)

13:05-13:25 開会挨拶 宮寄拓郎氏(ドライブレコーダー協議会会長)

13:25-13:55 「車載記録装置の国際動向や普及に向けた取り組み」

国土交通省自動車局安全・環境基準課 東海太郎氏

13:55-14:25 進化し続けるドライブレコーダー(ドライブレコーダーを支える技術 黎明期～現在～将来)

デンソーテン 重松智史氏

第二部<司会> 道辻洋平氏(映像情報活用部門委員会幹事)

14:35-15:05 360° ドライブレコーダーの課題と展望 カーメイト 中村良幸氏

15:05-15:35 「つながる」ドライブレコーダー活用の将来展望 プレミア・エイド 吉澤成一朗氏

15:35-16:05 ドライブレコーダーのデータ活用について(データベースの現状と将来展望)

東京農工大学 毛利 宏氏

第三部<司会> 青木宏文氏(映像情報活用部門委員会幹事)

16:10-16:55 総合討論(聴講者からの質問受付, ドライブレコーダーの機能・サービス・活用の未来についてパネル討論)

16:55-17:00 閉会挨拶 鳥塚俊洋氏(ドライブレコーダー協議会副会長)

4. オンライン開催の結果、定員 250 名のところ、255 名が事前登録し、およそ 200 名強の参加数であった。講演資料は事後ダウンロードできることとし、ドライブレコーダー協議会に保存することとした。初めての

WEB 開催であったが大きな混乱なく、無事終了した。

5) 部会活動

① 製品テスト部会 部会長 小野 治良

2020 年度は、当協議会においても、新型コロナウイルス蔓延に伴う緊急事態宣言発令後、3密(密閉、密集、密接)を避ける観点から、会合等は web 会議等に切り換えて活動を行っているが、毎年恒例の「製品テスト会」は、その活動の性格上、会員を招集して実施することになるため、3密の観点からやむなく中止とせざるを得なかった。

また、活動の推進役である幹事が所属先の人事により部会から離れることとなり、2020 年度下期においては活動が停滞してしまった。2021 年度は、新任の担当理事のもと、新たに体制を整え、当面続くと予想される新型コロナウイルス環境での「製品テスト」の意義を考え直し、ドライブレコーダーに求められる姿を「製品テスト」という切り口で啓蒙していくという活動も視野に入れたい。

ワクチン接種が順調に進み、企業活動が以前のように戻るようであれば、恒例の「製品テスト」の実施も考えられることから、その準備と実施できない場合の代替活動も議論して行きたい(一例として、製品テストに用いる機材を参加会員に巡回貸し出しを行ってデータを収集し、集計を行う等)。

製品テストでは、市場に流通する製品について、会員内外を問わず、製品に記載の内容と実機の性能について確認を行うこととしている。また、公平かつ効率的に行うため、テスト項目の見直し、必要な機材の導入、改良、テスト方法の見直しも行う。なお、実施対象製品は、会員からの提供及び市場流通品を購入して実施する。

② データ活用部会 部会長 堀野 定雄

2020 年 2 月以来、わが国で急激に拡大した新型コロナウイルス感染の防止対策上、対面式会議を回避する基本方針維持がそのまま部会活動休止状態に陥った事態を猛省している。現状のコロナ禍は、各種専門的予測では近未来収束の見通しはなく、数年先まで続く見通しなので、オンライン・リモート形式のコミュニケーション方式中心にメンバー相互コラボレーションと創意工夫で諸困難を克服し、内容本位の部会活動を展開する所存である。

当部会は、映像記録型ドライブレコーダーを駆使した古典的なニアミス分析や事故分析などの Reactive (対応型)分析を否定はしない。しかし、それよりも映像と音声の優れた記録機能を活かした数多の危険な走行場面において、咄嗟の機転で安全運転を継続維持したドライバーの事故回避運転技能や運転情報処理術などの創意工夫術を発見することを重視して発足した。正にドライブレコーダーの創造的活用としての Proactive (積極型)分析である。具体的には、会員企業が保有するドライブレコーダーデータから、事故寸前状況で運転者の機転や優れた運転技能で危機を乗り切った事例など、他の運転者に参考になるポジティブ場面の具体的な諸条件の記録・分析を行い、新しい発見を目指している。

一定数の事例が集まり、横断的意味合いを抽出するなど、積極的成果がまとめれば公開する。なお、この文脈で既に成果を挙げている国土交通省自動車局に設置されたドライブレコーダー関連専門委員会の実績を参考としていることを付記する。

また、交通事故時ドライブレコーダー買替補償金制度により会員企業から提供されたドライブレコーダー

データの積極的な活用を図るため、補償金規程の見直しを行う。さらに、データ利用における個人情報保護に関する勉強会を企画し、会員の認識を深める。

③ 推奨ガイドライン作成部会 部会長 小林 恭二

2020 年度は、ADAS 部会との連携により、昨年度より取りまとめを行っていた ADAS 機能のガイドラインについて、2020 年 9 月 16 日に「ドライブレコーダー推奨ガイドライン」に追加し、公表した。

通常の定例会は、2020 年 12 月に活動を再開し、2021 年 1 月に定例会を開催した。活動内容としては、通常の活動とは別に、D-Call net 研究会との連携のための定例会を立ち上げることにした。また、通信、AI、記録媒体(SD カード)を重点活動内容とし、その他、様々な新技術についての勉強会を不定期に開催するとの方針とした。

④ ADAS 部会 部会長 浮穴 浩二

2020 年度は、2019 年度作成の ADAS(高度運転支援システム:Advanced Driver Assistance System)ガイドライン(第 1 次)を見直し、文言の統一や内容の肉付けをし、ガイドラインを8月の運営委員会で完成させることができた。2020 年 9 月 2 日には、ガイドラインを国土交通省自動車局の安全・環境基準課担当官に報告した。また、2020 年 9 月 25 日の総会に報告した。

マーケティング活動として、カメラ付き ADAS 車とドライブレコーダーの実装率について、目視カウントで調査を行った。スーパーの駐車場(休日と平日)と住宅地で実施した。1 回だけの目視ではあったが生活者の車にはドライブレコーダーが 50%程度に装着されていた。また、ADAS 車も 20%を超え、ADAS 車にドライブレコーダーも付けている自家用車が 40%を超えていた。今後も調査を継続したい。

一方、車ディーラーの店長にヒアリングで「安全装置が自動運転 ADAS、自己防衛装置がドライブレコーダー」という分類概念を教わり、最近では両方を付ける新車販売が非常に多い傾向にあることが分かった。

次期機能を検討するセミナーは実施できなかったが、部会主催のドラ協全会員に向けた ADAS セミナーとして、2021 年 3 月 26 日に ADAS 機器に関する説明会と昨年無償提供された ADAS 機器使用報告会を実施し、25 名の参加があった。

2021 年度は、ガイドラインのアップデートをしていくこととしている。また、将来の ADAS 機能付きドライブレコーダーとしての DMS(ドライバーモニタリングシステム)等の可能性を探るセミナーを開催する。さらに、自己防衛装置としての ADAS 機能付きドライブレコーダーのあり方などを検討する。

⑤ 広報部会 部会長 鳥塚 俊洋

2020 年度はコロナ禍の影響からマスコミ対応が減少したが、調査会社等を含め、出荷実績、商品動向、市場動向等に関する問い合わせは増える傾向であった。また、国土交通省のドライブレコーダー普及啓発ちらし、普及啓発動画の制作に協力した。

また、かねてから懸案だったホームページの全面的なリニューアルを 2020 年度に実施し、2021 年 5 月から公開し、会員間の情報共有や、一般の方への情報提供をより活発に行えるようにしたので、2021 年度は新しいホームページを活用した活動を軌道に乗せ、協議会の活動を活発化させるための支援を行っていくこととしている。

⑥ 技術広報部会 部会長 久保 登

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、協議会外部への情報発信(講演、寄稿、情報交換会など)がなく、特筆すべき活動はなかった。

今後、新型コロナウイルス感染症の状況が好転し、外部への情報発信の機会を得られるようになれば、従前同様に協議会やドライブレコーダー機器、ドライブレコーダーによる映像や事故の分析などの情報を発信していくこととしている。また、広報部会とも随時連携を取って活動する。

6) 勉強会・セミナー等

- ① 2020年9月25日の総会開催に合わせ、「SONY CMOS センサー STARVIS について」の勉強会を行った。現在、多くのドライブレコーダーで使用されている「STARVIS」について、製品の紹介や今後の展開などについて、講演を頂いた。(事務局 小林恭二)

ソニーセミコンダクタソリューションズ(株)イメージングシステム事業部
ISビジネス2部 統括部長 和田孝政様

- ② 2021年1月に、一般財団法人日本品質保証機構(JQA)様の協力で、新車載EMC棟見学会を企画したが、新型コロナ緊急事態宣言発令のため延期とし、日程を再調整することとした。
- ③ 2021年1月に、プレミア・エイド(株)様の協力で、事故自動通報コールセンターの見学会を企画したが、新型コロナ緊急事態宣言発令のため延期とし、日程を再調整することとした。

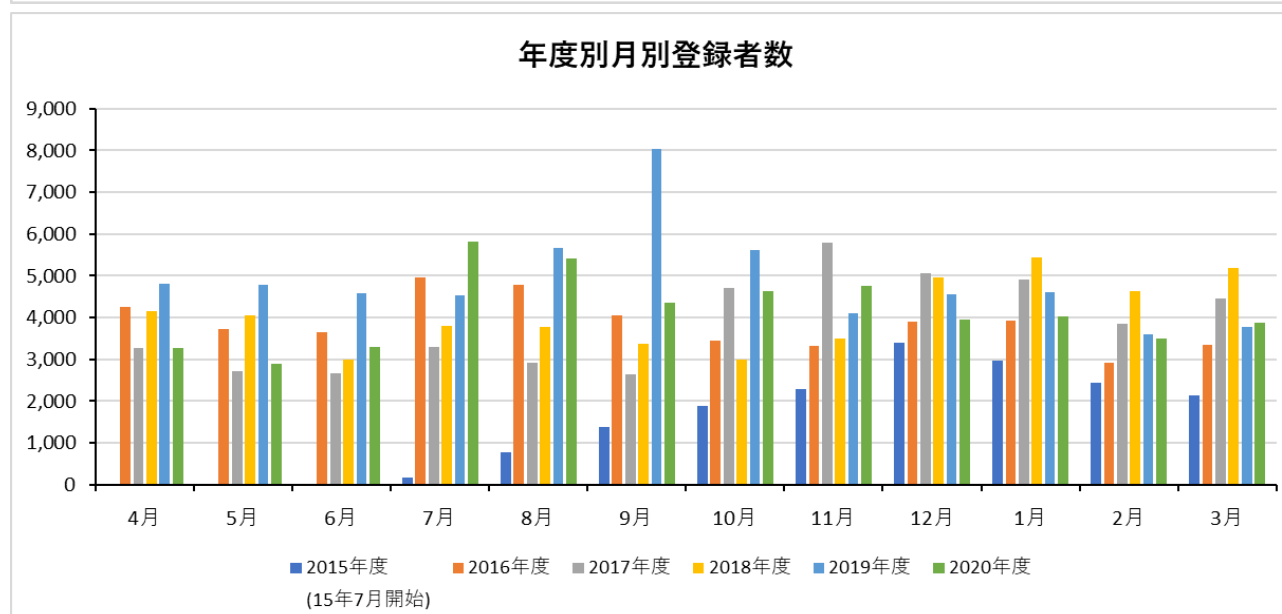
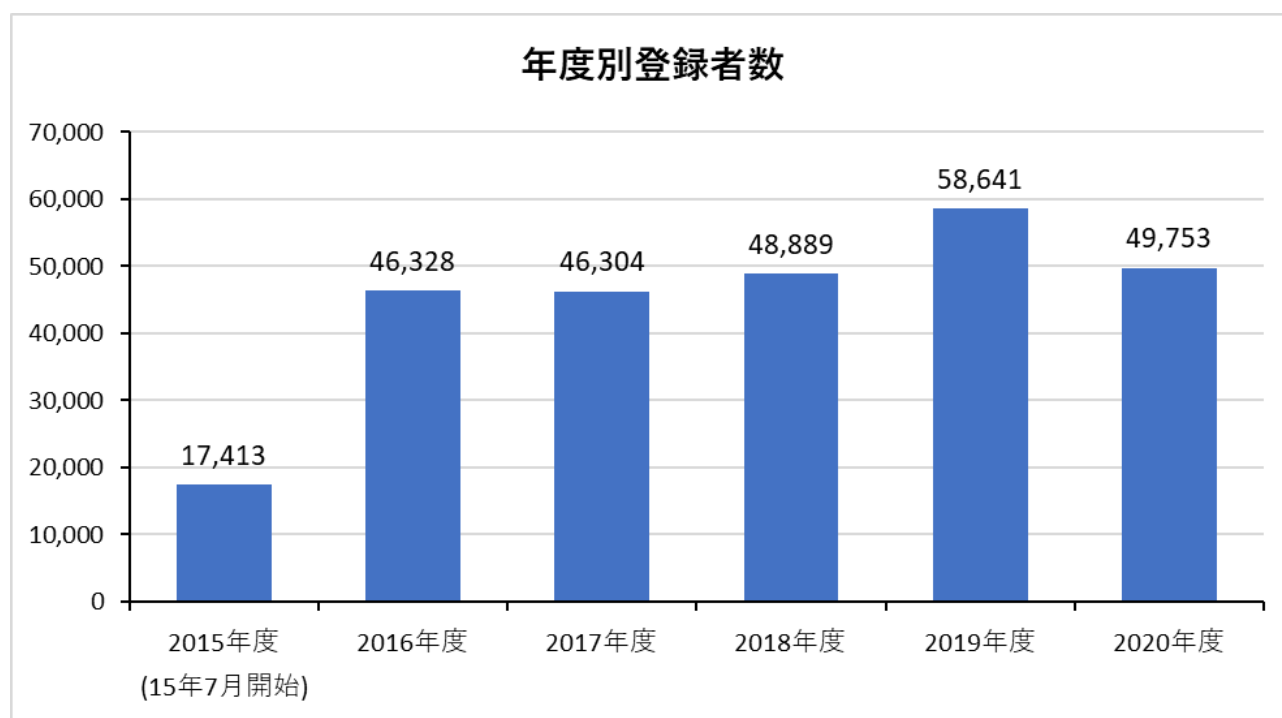
7) 交通事故時ドライブレコーダー買替補償金制度

2015年7月から実施している交通事故時ドライブレコーダー買替補償金制度における登録者数の推移は、下記の通りである。

総対象機種数 165 機種

2020年度総加入者数 49,753 名

2020年度事故件数 14 件(内お支払いをしたのは9件)

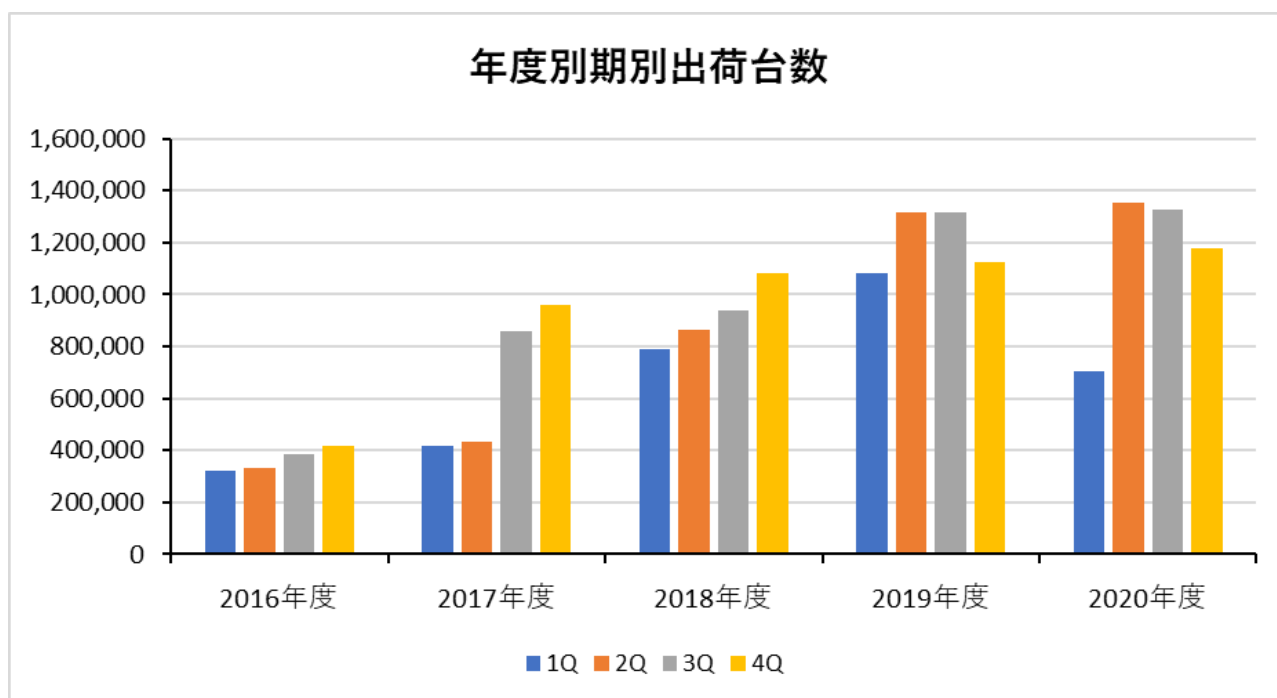


8) ドライブレコーダー 出荷統計

ドライブレコーダーの出荷台数統計データについて、一般社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA) とタイアップで実施している。

2015 年における 1 年間のテスト運用を踏まえて、2016 年度より公表しているドライブレコーダーに関する工場出荷台数は、下記の通りである。

2020 年度は、第 1 四半期は新型コロナウイルスの影響による新車需要が低迷したことから、出荷台数が大幅に減少した。第 2 四半期以降は 5 月に支給された特別定額給付金や移動手段に自家用車を選択する人が増えた影響から対前年と大きくは変わらない状態になっている。



調査対象

品目定義

ドライブレコーダー	交通事故等の発生状況を記録することを主たる目的として、車両の周囲や挙動をカメラや各種センサにて記録する車載装置。記録するメディアの種類、録画方法、液晶ディスプレイの有無は問わない。
業務用	運行管理や安全運転教育も目的とした法人向けに設計されたモデル。
コンシューマ用	万が一の事故時の映像記録を主目的とするもの。

統計参加企業(順不同)

(株)アイ・オー・データ機器、アルパイン(株)、(株)JVCケンウッド、(株)デンソー
 (株)デンソーテン、パイオニア(株)、パナソニック(株)、三菱電機(株)、矢崎エナジーシステム(株)
 (株)ユピテル、(株)TCL、(株)コムテック

9) 他団体との連携

2020年6月	ITS-JAPAN 踏切通行支援システム検討タスクフォース 京セラ加藤様、JR 東日本松村様、事務局吉川様他 「踏切通行支援システム」についての意見交換 宮寄会長、鳥塚副会長、竹村理事、浮穴 ADAS 部会長、久保技術広報部会長
2020年6月	国土交通省自動車局安全・環境基準課 小磯室長、東海課長補佐 ドライブレコーダーについての意見交換 宮寄会長、鳥塚副会長、浮穴 ADAS 部会長、小林事務局長
2020年9月	国土交通省自動車局安全・環境基準課 東海課長補佐、田中係員 ドライブレコーダーADAS 機能についての意見交換 浮穴 ADAS 部会長、小林事務局長
2020年12月	自動車技術会技術会議映像情報活用部門委員会との共催 ドライブレコーダー・シンポジウム「ドラプリ 2020」 テーマ「ドライブレコーダーの過去・現在・未来」
2021年2月	第17回 D-Call net 研究会に参加 宮寄会長、鳥塚副会長、喜多製品テスト部会幹事

4. 組織体制

1) 会員リスト

- 法人会員 39 社(五十音順)
株式会社アンバレラ・ジャパン
MS&AD インターリスク総研株式会社
株式会社 NP システム開発
エコモット株式会社
株式会社エフ・アール・シー
株式会社オリエンタルコンサルタンツ
大橋産業株式会社
株式会社カーメイト
キオクシア株式会社
クリムゾンテクノロジー株式会社
株式会社慶洋エンジニアリング
KDDI 株式会社
株式会社コムテック
コーンズテクノロジー株式会社
株式会社ザクティ
ジャパン・トゥエンティワン株式会社 東京本社
SOMPO リスクマネジメント株式会社
株式会社 JAF メディアワークス
スマートモバイルコミュニケーションズ株式会社
セルスター工業株式会社
株式会社 TCL
東海クラリオン株式会社
東京海上日動火災保険株式会社
ドコモ・システムズ株式会社
株式会社鳥取スター電機
トム通信工業株式会社
豊田通商株式会社
トヨタモビリティパーツ株式会社 大阪支社
一般財団法人日本品質保証機構
パナソニック カーエレクトロニクス株式会社
株式会社プレミア・エイド
株式会社プロジェクト琉球

株式会社モービルアイジャパン
矢崎エナジーシステム株式会社
ヤマトシステム開発株式会社
株式会社ユピテル
株式会社リムライン
ローム株式会社
株式会社ワーテックス

● 個人会員 16 名

青木 宏文(名古屋大学)
石川 博敏(救急ヘリ病院ネットワーク)
浮穴 浩二(UK コンサルタント)
北村 憲康(東京海上日動リスクコンサルティング株式会社)
久保 登(東京大学)
小林 敏雄(東京大学)
島崎 敢(名古屋大学)
辻村 春樹(株式会社 T.コーポレーション)
永井 正夫(東京農工大学・日本自動車研究所)
堀野 定雄(神奈川大学)
道辻 洋平(茨城大学)
宮寄 拓郎(群馬大学・株式会社 NTT データアイ)
毛利 宏(東京農工大学)
吉本 堅一(東京大学)
龍 重法(神奈川大学)
渡部 大志(埼玉工業大学)

2021 年 3 月 31 日現在

2) 理事・監事

代表理事・会長	宮崎 拓郎	国立大学法人群馬大学 客員教授 株式会社 NTT データ アイ 特別参与
業務執行理事・副会長	鳥塚 俊洋	株式会社 JAF メディアワークス IT メディア部 部長
理事(補償金制度担当)	井脇 太郎	東京海上日動火災保険株式会社 東京中央支店 課長
理事(経理担当)	竹村 公一	SOMPO リスクマネジメント株式会社 モビリティコンサルティング部 特命部長
理事(特命担当)	辻村 春樹	株式会社 T・コーポレーション 代表取締役
理事(ドラプリ・データ基盤担当)	永井 正夫	東京農工大学名誉教授、日本自動車研究所顧問
理事(データ活用担当)	堀野 定雄	神奈川大学 工学研究所 高安心超安全交通研究所(KU-WIRF)
理事(製品テスト担当)	山口 慎吾	株式会社コムテック 東日本営業部長
理事(ガイドライン担当)	吉澤 成一郎	株式会社プレミア・エイド 代表取締役
理事(会員担当)	龍 重法	神奈川大学 工学研究所 高安心超安全交通研究所(KU-WIRF)
監事	金子 由里子	あい会計事務所 公認会計士・税理士
監事	吉本 堅一	東京大学名誉教授 工学博士

2021年3月31日現在

問い合わせ

一般社団法人ドライブレコーダー協議会 事務局

〒140-0013 東京都品川区南大井 6 丁目 3 番 7 号 株式会社審調社内

TEL:03-3767-0451 FAX:03-3767-8590 e-mail:jdrc@scs-21.co.jp